

若年者を「一人にしない」ために

(2)コミュニケーションが苦手な学生への支援



北山四郎

国家資格 キャリアコンサルタント
2級キャリアコンサルティング技能士

■図 ワークシート

学生時代に取り組んだこと。(学業編)	
ESの作成の秘訣⇒箇条書きで整理して書く 面接での掘り下げ質問対策にもなる!	
学業で取り組んだ内容で、あなたの取り組み姿勢と発揮できた成果を具体的に話すこと。 - どのような場面(状況)で、どんな力を使って行動したか、具体的に表現。 - どのように、学びや研究を掘り下げ、解決していったか。力のヒント⇒社会人基礎力を参考にしてみよう。 - ただ、一生懸命ではなく、具体的にどんな力を使って取り組んでいったかを話すと効果的。 - ゼミ活動や大学の授業をテーマにする場合には、大学のシラバスに沢山のヒントあり。	
ゼミナールで【	】することを目的として
【	】に取り組みました。
例 ゼミナールで地元多摩地域の活性化を目指し、地域の高齢者と子供たちの交流イベントに取り組みました。	
1. 【状況を詳しく・内容を具体的に】	
【場面・状況】具体的な数字を盛り込むと相手にイメージしてもらいやすい。	
2. 【大変だったこと】ポイントは⇒課題発見力である。	
取り組んだことに対して、どのようなことが課題であったかを明確にする。	
3. 【どう改善していこうと思ったか】ポイントは⇒主体的取り組みと行動力を表現・・・①PLAN	
- こうすれば、よりよい結果がえられる。こんな点に改善が必要等。ポジティブシンキングをベースに。 - 行動したあとの経過はどうだったか。問題なく進められたか。改善は必要でなかったか・④ACTION	
4. 【解決・克服していくために、あなたは、どう努力したか】。課題発見+主体性+行動力	
- 上記3つの力以外にはどんな力を使ったか【 する力】・・・・・・②DO - 掘り下げる力、向上心、目標設定等はどうだったか・・・・・・⇒それに対する③CHECK	
5. 【何を学んだ】【経験から身に付けたこと】	
- 上記の中で、一言で、相手にに対して身に付けた能力や、得たスキル等を確認しておこう。 - 希望している職種でいかにポイントに照準を合わせる	
6. 【その他】	

今回は、就労意欲はあるが、コミュニケーションが苦手な若者への対応について、お話をさせていただきます。今号が読者の方々のお手元に届く頃には、もう「自信がなくなってしまう」と、自分を見失いかけてしまっている若者の相談者が来られているかと思えます。「職に就く」という目標より、「内定」が欲しいと切実に思っている学生の偽らざる気持ちであると思います。このような時こそ、私たちカウンセラーは、若者の気持ちをしっかりと受け止め、それに対して、どこに問題があるのかを見極め、的確に対応することが肝要であると私は思います。

就労意欲はあるが、「コミュニケーションが苦手」な若者の問題点

多くの場合、面接で落ち続けてしまうというケースが見られます。つまり、面接力に問題がある場合です。ポイントとして、「話す内容の把握」と「話し方」に問題があるものです。代表的なものとして、次のようなケースがあります。

1 話す内容を整理されていない。少し掘り下げられると、頭が真っ白になってしまふ。

2 話す内容を箇条書きで整理し、記憶に留める。

3 話し方が入っていない。

内容に深みがなく、言葉のキャッチボールができていない。

⇒気持ちについては、生き生き話すこと。そして、相手を意識した「話しかけ」相手が頷いてくれる話し方や(間)を大切にするように指導する。

3 癖があり、その癖がネックとなり、評価されない。面接となった途端に構えてしまい、ロボット口調となってしまう。

⇒親しい友人と話す時をイメージさせることで、構えをなくし、親しみやすく自然体で話すことを意識づける。

P D C A サイクルと動画の活用

さらに、1の解決策として、私は図のような資料を使って、代表的な質問に対する掘り下げシートで内容を確認させ、それぞれの質問に対して、話し方のアドバイスもしていきます。

・話す内容の検証

ポイントは、P D C A サイクルを中心に進めることです。学生の腑に落ちるように、一緒に確認していくと、自己理解も進み効果があります。

・話し方についての検討

ベストな方法は、やはり、映像に撮って見せることです。これには、スマートフォンや動画撮影機能をフル活用します。「百聞は一見に如かず」の諺通り、大きな気づきに結び付きます。

「話しかけ」については、友人と会話する時のようにフランクな会話で練習をします。まず「言葉のキャッチボール・会話」を優先させ、「面接は会話」であることに気づいてもらいます。

就職相談に来る学生は、必ず「就職」をしたいという気持ちを持ってきます。その心の芽が育つ方向性を、ぜひ的確に支援していきたいものです。

「情報過多で身動きが取れなくなっている」、「就労意欲がない」若者の対応については、次号以降で取り上げたいと思っています。